

2025年6月29日 説教「悪霊につかれた子のいやし」

ルカの福音書9章37～45節

9章では、ペテロの信仰告白、主の十字架の預言、さらに、弟子への信仰伝授がありました。そして、先週にはイエスが山上において変貌し、モーセ、エリヤと語り合ったという出来事を見てきました。

1. 悪霊につかれた息子 (37～39節)

①山から降りると (37)「次の日、一行が山から降りて来ると、大ぜいの人の群れがイエスを迎えた。」

次の日というのは、イエスの山上の変貌の出来事があった翌日ということでしょう。山から降りると大勢の人々がイエスを迎えた、という表現が山の麓のそばということであれば、その山がヘルモン山である可能性は低いです。マルコの福音書の並行記事では、イエスとペテロとヤコブとヨハネが、他の弟子達の所に戻ったというのですから、戻った所はガリラヤ湖周辺であったと考えられます。

②ある父親の依頼 (38)「すると、群衆の中から、ひとりの人が叫んで言った。『先生。お願いします。息子を見てやってください。ひとり息子です。』」

さて、この場所をカペナウムあたりだとします。イエスの周りには群衆が押し寄せていたのです。その中の一人が叫びました。「先生。一人息子を見てやってください!」。彼にとってはかけがいのない子に問題がありそうで、必死に訴えかけています。

③突然叫び出し (39)「『ご覧ください。霊がこの子に取りつきますと、突然叫び出すのです。そしてひきつけさせてあわを吹かせ、かき裂いて、なかなか離れようとしません。』」

父親が言う、その子の状況はこうでした。悪霊がその子どもに取り付くと、叫び出すというのです。それも突然に。そして、悪霊はその子にひきつけさせ、あわを吹かせるというのです。また、悪霊はさんざんにその子を打ちのめして、彼から離れようとしないうのです。マタイの福音書では、何度も火の中や水の中に落ちたりしているとも伝えてあります。

2. その子をいやしたイエス (40～42節)

①お弟子にはできず (40)「『お弟子たちに、この霊を追い出してください。お弟子たちにはできませんでした。』」

ペテロ、ヤコブ、ヨハネ以外の弟子達は、この父親から悪霊追放を要請されたのです。12弟子達にはイエスは「悪霊を追い出し、病気をなおすための、力と権威をお授けになった」(9:1)のです。ところが、彼らが悪霊追い出しの試みをしたのですが、それは成りませんでした。

②不信仰な曲がった今の世 (41)「イエスは答えて言われた。『ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまで、あなたがたといっしょにいて、あなたがたにがまんしていなければならないのでしょうか。あなたの子をここに連れて来なさい。』」

イエス言われた「不信仰な、曲がった今の世」とは何でしょう。不信仰は主なる神以外に心を向けて生きることであり、曲がった世とは罪に支配された人々と理解できます。聖書の「罪」という言葉は元の言葉でハマルティアと言いますが、的外れという意味になります。イエスはここで、弟子達を含めた人々が、見るべきものを見失っている状態にあることを諷められたのです。その上で、その子どもを自らの所に連れて来なさいと命じられました。

③汚れた霊を叱り (42)「**その子が近づいて来る間にも、悪霊は彼を打ち倒して、激しくひきつけさせてしまった。それで、イエスは汚れた霊をしかって、その子をいやし、父親に渡された。**」

その子がイエスの許に連れてこられる間にも、悪霊は彼に働きました。そして、彼を投げ倒して、痙攣をおこさせてしまいました。イエスはその汚れた霊を叱りつけ、その子を悪霊から解放してくださったのです。息子は落ち着き、父親に返されたのでした。

3. イエスの預言 (43~45 節)

①イエスのなされた事を驚き (43)「**人々はみな、神のご威光に驚嘆した。イエスのなされたすべてのことに、人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた。**」

イエス・キリストがこの息子から悪霊を追い出し癒されたのを見て、人々は神がそこに働かれているという権威を感じ、驚いたのでした。人々の驚嘆しているさなかに、イエスは静かに弟子達に語りかけたのでした。

②ことばを耳に入れて (44)「**『このことばを、しっかりと耳に入れておきなさい。人の子は、いまに人々の手に渡されます。』**」

イエスは、これから言うことを決して忘れないように、覚えていなさいと言われるのでした。それは、イエス・キリストは人々の手に渡されることになる、逮捕されるということでした。既に、イエスはその逮捕、受難、十字架、復活について預言されていましたが(22 節)、それが改めて語ることによって、確実にそのことが来ることを示されたのです。

③みことばを理解できず (45)「**しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。このみことばの意味は、わからないように、彼らから隠されていたのである。また彼らは、このみことばについてイエスに尋ねるのを恐れた。**」

弟子達はイエスの言われることの意味がよくわかりませんでした。この当時、イエス・キリストは多くの人々に歓待されていたのですから、人々の手に渡されるということが想像できなかったのです。そのことは、主なる神がそのことの真意を隠されていたのです。また、弟子達自身もそれを知ることがこわくて、さらに知ろうとすることを避けたのです。

《結論》 今朝もこの聖書箇所から三つのポイントで考えます。「

第一は、息子への父親の愛を用いたイエス

8章には会堂管理者ヤイロが娘が死にかけていることで、父親がイエスの所に駆けつけ、回復を与えられた記事があります。今朝の記事の父親にとっては一人息子が悪霊につかれて混乱していることで、イエスのところに来ています。一人息子と言えば、アブラハムにとってイサクは一人息子でした。その息子をささげよと主から命ぜられた時には苦しみました。目の中に入れても痛くないという表現がありますが、彼らも子供を愛していたことでしょう。ところが、その子供が窮地にある時に親がイエスの所に来ることを、ある人は苦しい時の神頼みと言うかもしれません。しかし、主は彼らに手を差し伸べてくださっています。私たち自身、あるいは周辺にいる者たちが、苦しんでいる時に、主の前に来ることは良いことです。その時は、主を知るチャンスでもあります。かといって、苦しんでいる人の苦しみに付けこむようなあり方は慎みたいものです。祈りつつ主の許に行きましょう。

第二に、息子から悪霊を追い出されたイエスについてです。

マグダラのマリヤは七つの悪霊を追い出していただいたとあります(8:2) また、ゲラサの地で、多くの悪霊につかれた男から、悪霊が追い出されて豚に入ったという出来事がありました(8:26 以下)。この後にも出てきます。悪霊の総元締めは悪魔(サタン)で、悪霊たちを使ってその働きをします。元ウイクリフの聖書翻訳宣教師として、パプア・ニューギニアで奉仕していた真鍋孝師はこう述べています。「現代人にはほとんど失われてしまっている霊の世界への感受性がかの地の人々には豊かにありました。悪霊の力を用いて危害を加える魔術師に対する彼らの恐怖は本物でした。悪霊の存在は、彼らには現代人が電波や電気の存在を信じているのと同じように明らかでした。」私たちは悪霊の具体的働きを、この国の中にあっても、あるいは日常の中にも多々あるのですが、あまり意識しません。悪霊に巧妙に操られていないかを覚え、主イエスによって解放されていきましょう。

第三に、不信仰な曲がった世についてです。

マタイの福音書 17 章には今朝の聖書箇所の並行記事があります。そちらでは、弟子達はイエスの所に来て、「なぜ、私たちには悪霊を追い出せなかったのですか」と質問するのです。すると、イエスは「あなたがたの信仰が薄いからです。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に「ここからあそこに移れ」といえば移るのです」と答えておられます(19~20 節)。つまり、この不信仰は弟子達を始めとするクリスチャンの不信仰がまずは問題となるのです。その上で、この世の人々は主への不信仰と罪に支配を許すことが広く問題とされているのです。そして、そのことが結果として、悪霊の働きを広げ、悪霊から解放されることを妨げていることになるのです。

今、私たちも自らの不信仰と罪の支配を平気で許容しているとすれば、主の前に悔い改めていきましょう。そして、私たちも悪霊の働きから解放され、聖霊に豊かな支配に導かれていきましょう。